



連合駿台会報

No.356 令和4年7月20日発行
 発行・編集 連合駿台会
 発行人 広報委員長・齋藤柳光
 編集人 事務局・矢嶋まゆ子
 〒101-0052千代田区神田小川町三十二
 明治大学「紫紺館」内
 電話(〇三)三二九六一四七四七
 印刷 有限会社 美創

第六十八回連合駿台会総会を開催

第六十八回連合駿台会の通常総会が、令和四年五月十八日、ロイヤルパークホテル「ロイヤルホール」で開催されました。

田村駿会長は開会を宣言し、規約の第五章・第十三条に従い、会長が議長となり、議案の審議が進行されました。なお、第一号議案・第二号議案は関連性の高いものなので、両議案の説明後に一括して質問を受け、その後決議に入りたいとの提案が議長からあり、異議なく承認され、審議に入りました。

○第一号議案

令和三年度事業報告書、収支計算書、貸借対照表・財産目録の報告、ならびに監事による監査報告承認の件

▽令和三年度の事業報告については、当山明彦専務理事から報告があった。

①総会：第六十七回通常総会（六月二十四日）。②例会：四月例会（三月例会延期に伴

う特別例会・四月二十八日）、七月例会・九

月例会は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止、十一月例会（十一月十六日）、一月例会・三月例会は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止。③理事会：三回。④そ

の他（秋期ゴルフ会（十一月十日）を除き、正・副会長会、特別行事等は、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴いすべて中止、運営委員会：三回、各委員会）。④会報発行：三回、⑤会員状況：会員数は、新入会員は十一名（目標二十名）、退会会員は二十五名になったため、年度末の会員数は十四名減少して三百五十一名となったが、二年間続くコロナ禍の現状下では、やむを得ない結果であるとの説明があった。

▽令和三年度の収支計算書・貸借対照表・財産目録については、吉田光一郎財務委員長より以下の報告・説明があった。

・「収支計算書」については、「収入の部」では、当期収入総額は1624万4656円（予算額1921万円・対予算比八四・

六％）。内訳では年会費収入が1352万4000円（予算額1520万円・対予算比八九・〇％）、例会費収入は178万円（予算額300万円・対予算比五九・三％）だったが、これは年初当時、コロナ禍がこれほど長期化すると思えなかったため、予算をかなり下回る結果となったのは仕方ないと言える。広告費収入は94万円（予算額100万円・対予算比九四・〇％）、昨年よりは9万円減少したが、十一月例会費と名刺広告費を同時に収集したことで、振込料のご負担を減らせたこともよかったのかと思われる。皆様方のご協力に深く感謝する。

・「支出の部」では、総務費関係は全体で526万4422円（予算額605万円・対予算比八七・〇％）となっており、印刷費は名簿を作成できなかったこともあり予算を下回った。事業費の各委員会運営費では、一番大きな予算を組んだ総務・事業委員会費が、例会および様々な事業が中止になったため、337万565円（予算額610万円・対予算比五五・三％）で予算を下回ったのはじめ、広報委員会費が180万952円（予算額316万円・対予算比五七・〇％）、大学支援委員会費が189万4600円（予算額340万円・対予算比五五・七％）で、組織・会員増強委員会費と財務委員会費はともに0円だった。

すべての委員会が予算未達で、五委員会の総額では706万6117円、予算額1289万円に対する予算比は五四・八%、600万円弱の黒字だった。その他慶弔費も合わせ、当期支出合計は1234万539円、「明治大学創立一四〇周年寄付金・1000万円」の支出も含め、次期繰越収支差額は3732万7913円となった。

・「貸借対照表」では、借方「資産の部」の小口現金、みずほ銀行・普通預金、ゆうちよ銀行・普通預金、みずほ銀行・定期預金、大和証券・MMF、電話加入権を合わせて5533万9433円。貸方「負債・正味財産の部」の、流動資産の源泉預り金と、正味財産を合わせて資産合計と一致しており、収支差額のほとんどが現金・預金という、極めて健全な財務体質になっている。

▽監査報告（渡邊建三監事）

これらについて、規約第六章・第十八条の規定に基づき、令和四年五月十一日付けで小山修監事・渡邊建三監事が監査をした結果、会務の執行は当会の規約に従い、総会並びに理事会の決議に基づき誠実に行われており、一般会計はいずれも適正に処理されており、計算書類は本会の収支及び財産の状況を正しく示しているものと認められた。

○第二号議案

各委員会令和三年年度事業報告および令和四年度事業計画（案）・活動予算（案）、並びに収支予算（案）承認の件

▽総務・事業委員会 鈴木隆志委員長

〈令和三年度事業報告〉

① 令和三年度に入り、新型コロナウイルス感染症拡大により、例会・理事会・運営委員会の予定が中止・延期となった。

② 結果として総会と例会二回、理事会三回、運営委員会三回を開催した。

四月例会は、コロナ禍の下ではあったが、会場のホテルグランドパレスにて、『麒麟がくる』の脚本家・池端俊策氏を講師に迎え、懇親会は着席方式の会食として開催した。十一月は島岡監督のお話を丸山清光氏に依頼し、ロイヤルパークホテルにて盛大に開催ができた。

③ 新規会員の定着・懇親のための事業（勉強会／懇親会）は開催できなかった。

④ 会員相互の親睦ゴルフ会を秋一回開催した。しかしバス旅行、ラグビー観戦、春ゴルフ会は中止。

〈令和四年度事業計画・活動予算（案）〉

① コロナ禍の現状下でできる限りの例会開催を目指し、引き続き事業を円滑に進める。

② 例会出席者向上・親睦のために魅力ある

楽しい例会の企画を検討する。

③ 新規会員の定着・懇親のための事業（ビジネス勉強会&グルメ交流会、新入会員歓迎会等）を、コロナ感染対策をしつつ、状況を勘案し開催する。

④ 会員相互の親睦会（スポーツ観戦、ゴルフ会）を開催する。

【活動予算】 610万円

▽組織・会員増強委員会 高澤徹委員長

〈令和三年度事業報告〉

① 委員会の開催

五回開催（Web委員会四回含む）し、入会審査の実施と、理事会上程および持ち回り理事会（四回）等、速やかな承認手続きの遂行をした。

② 会員増強活動の推進
入会者：目標二十名

〔実績〕新規入会者〃十一名、入会承認者〃四名

〔新規入会者内訳〕新社長就任等〃九名、会員ご紹介〃二名

〔入会承認者内訳〕入会金未着〃四名
令和三年四月一日時点の会員数：

三百六十五名

・令和三年度の実績 退会者：二十五名、入会者：十一名↓十四名減

・令和四年四月一日時点の会員数：

三百五十一名

コロナ禍の影響で情報源の「大学との懇談会」が三年連続で開催されず、会員のご紹介と新社長情報による活動とに限定され、会員拡大ができなかった。

- ③ 会員の例会出席率の向上策の検討と実施
入会希望者の例会同伴参加費用無料は、例会開催が少なく利用機会がなかった。

〈令和四年度事業計画・活動予算(案)〉

- ① 委員会の開催
年五回を目安に入会審査の実施と速やかな承認(目標二十名)の手続きの遂行を行う。

- ② 会員増強活動の推進
新社長・役員リストによる入会活動と会員ご紹介を推進する。会員ご紹介による入会希望者の例会同伴費用を無料とする。
- ③ 会員の例会出席率の向上策の検討と実施を図る
過去三年の新入会員で例会無出席、または初回のみ出席等の方に対して、紹介会員のご協力もいただき、出席促進を行う。

【活動予算】 15万円

▽広報委員会 斎藤柳光委員長

〈令和三年度事業報告〉

- ① 会報はコロナ禍による例会中止などに伴い、定期の六回から三回(第三百五十

三号(三百五十五号)刊行のやむなきに至ったが、会員の要望も多い大学など幅広い情報でフォローした。

- ② 明治大学広報紙への大学支援広告は、令和三年五月号から令和四年三月号まで、予定通り隔月で計六回掲載し、会の紹介はもちろん、山田朝彦副会長が本学特別厚労賞に選ばれ、創立一四〇周年を記念して本会が団体厚労賞を受賞したことなど、会の充実ぶりを内外にアピールし、恒例化している会員による入会コメント四広告でも、初の女性メンバーの協力も得た。
- ③ 年賀名刺広告はコロナ禍にもかかわらず、個人七十四名、協賛五社の協力をいただいた。

〈令和四年度事業計画・活動予算(案)〉

- ① ホームページのリニューアルについては、大学との公式な交流企画や例会などが中止となり実施を見送っているが、ポストコロナも見据えて着手したい。
- ② 同様に見送っていた入会案内リーフレットは必ず製作し、会員増強などに活用していく。

- ③ 明治大学広報の支援広告を二〇二二年七、九、十一月、二〇二三年一、三、五月各号の計六回掲載する。

- ④ コロナ禍などによる会員相互の交流不足

を開するSMSを実用化する。

- ⑤ 本会の有為な活動を、既存メディアにバリエーションしていく。

【活動予算】 311万円

▽大学支援委員会 眞壁八郎副委員長

〈令和三年度事業報告〉

- ① 第二十七回学術賞・学術奨励賞はコロナ禍の影響で各分野の学術奨励賞のみ実施した。社会科学分野(鈴木開専任講師)と自然科学分野(新屋良治准教授)の二名を銓衡して三月十五日に授賞式を実施。
- ② 連合駿台会寄付講座はコロナ禍の影響で、対面ではなくオンラインにより春期・秋期を実施した。

- ③ a.フューチャースキル(FS)養成講座(商・経営学部)は、オンライン講義により会員協賛企業九社から講師を派遣していただき、好評のうちに講座を終了した。
- b.フューチャースキル(FS)養成講座の延長線である連合駿台会協賛「商学部・経営学部学生対抗プレゼン大会」もオンラインで募集を行い、大学教員と大学支援委員会メンバーにより審査を行うとともに、プレゼン大会の表彰式を実施し、優秀チーム・敢闘チームを決定して、表彰式を実施した。

- ④ 新入留学生向け「日本企業への就職活動

支援」は、コロナ禍の影響で見通しが立たず中止。

⑤ ホームカミングデーはホームページにバナーを協賛した。シェイクスピアプロジェクトは対面とオンラインを併用し実施され協賛した。お茶の水JAZZ祭は、本年度より「御茶ノ水文化祭」と名称を変え、オンデマンドにより実施され協賛した。

〈令和四年度事業計画・活動予算(案)〉

① 第二十八回連合駿台会学術賞・学術奨励賞はコロナ禍の影響を見極める必要があるが、今年度は大学のVISION 150のスタートに当たり、研究分野の強化を図ることを念頭に、分野横断の学術賞・学術奨励賞の従来の募集と表彰の実施を検討している。

② 寄付講座の運営主体であるアカデミー・モン講座はコロナ禍を踏まえ、オンライン、オンデマンド両建ての方法で実施する。今年度の連合駿台会寄付講座は、講師・視聴者の新型コロナ罹患リスクを回避すべく、オンデマンドで実施することとした。

・春期(七月二十三日・十時三十分～十二時) オンデマンドで配信

山田朝彦氏(彫刻家、日本芸術院会員、日展理事、日本彫刻会理事長、日本金

属工芸研究所・取締役会長、連合駿台会・副会長)

③ a.フューチャースキル(FS)養成講座は、商・経営学部からの要請に基づき、四月より九講座をオンライン講座にてスタートした。講師派遣いただいている企業は京王電鉄、りそな銀行、山崎製パン、三井住友海上、共同印刷、野村不動産、関電工、中村屋、J.A.全中、九社。※他方、時事通信社、NHK、あおいニッセイ同和損保は、FS以外の講座に講師派遣をいただく予定(会社名・敬称略)

b.プレゼン大会は、昨年と同様、連合駿台会、商学部、経営学部共催でオンラインにより実施する。優秀賞・敢闘賞の銓衡は大学教員と連合駿台会大学支援委員会で行い、表彰式を実施し、賞状・副賞を授与する。コロナ禍が収まれば、例会で優秀賞・敢闘賞の授賞者講演も行いたい。

④ 新入留学生向け「日本企業への就職支援」活動は、就職キャリアセンターとオンラインの開催を検討するが、コロナ禍で留学生が激減している中で、大学の取組にフォローする。一方、大学からのニーズが高いMBA講座の講師派遣などの支援を検討する。

⑤ ホームカミングデー、シェイクスピアプロジェクト、御茶ノ水文化祭の協賛については、対面とオンライン併用による開催が予定されており、本年度も協賛する。

【活動予算】 320万円

▽財務委員会 吉田光一郎委員長

〈令和三年度事業報告〉

① 年会費収入については、当初予算の1520万円に対して1352万4000円となり、予算比約168万円不足となった。最近の年会費収入実績は、令和二年度1482万2000円、令和元年度1590万5000円である。

② 会費未納者数は、三百七十六名中四十八名(三百七十七名中四十三名)、会費未納率は一二・七%(一一・四%)となった。コロナ禍で例会等が予定通り行えない状況において、再請求も一回に止めるなども影響したと思われる。※()内の数字は前年度末のもの。③についても同じ。

③ 総務費については、当初予算の605万円(540万円)に対し526万4422円(645万4978円)で約79万円少なく(約124万円超過)、予算比八七・〇%(一一九・五%)となった。前期実績比で減少の主な要因は、例会

④ 資料等発送費用の減少(約26万円)、文具費・PC関連費の減少(約33万円)、名簿の作成を行わなかったことによる費用の減少(約50万円)である。

④ コロナの影響で財務委員会を開催することができなかった。

〈令和四年度事業計画・活動予算(案)〉

① 年会費収入、例会費収入、広告費収入等の収入額に対応した支出の予算管理の徹底化のため、適切な情報の収集・会計処理等を行い、財産基盤が損なわれないよう、収支管理に努める。

② 年会費未納者に対する再請求方法を検討する。

③ 財務委員会を開催し、会費の督促方法、当会資産の活用方法について協議し、より良い活動を目指す。

【活動予算】 8万円

【令和四年度収支予算(案)】

① 収入の部では、コロナ禍による会員の退会者増加なども考えられるが、目標額として、年会費1360万円、新入会員入会金分は二十名分60万円として、1420万円とした。例会(総会)はすでに五月は行ったが、七月以降のことは曖昧ではあるが、今のところの社会状況から考えて、「隔月で例会を行える」という前

提のもと、平均八十名の出席、会費は一万円(今年度も大学での開催は難しく、開催場所がホテルになることを見込んだ金額)として、計400万円とした。

ただし、一月の駿台懇話会に関しては、開催の有無・やり方とも未定である。

② 広告費収入は昨年度実績に合わせて90万円とし、当期収入計は1911万円、前期繰越収支差額をプラスした結果、当期収入合計は5643万7913円とした。

② 支出の部では、総務費は昨年と同様の605万円、事業費は先ほど各委員長から計上された額の合計1264万円、その他の事業費として慶弔費10万円、予備費として10万円を加えて、当期支出の合計は1889万円とした。

③ 昨年度同様、今年度の収入・支出ともに、今後のコロナ禍の状況によつては大きく変わってくるので、あくまでも現段階での予測に基づいて作成している。

③ 第一号議案・第二号議案については、満場一致で可決・承認された。

第三号議案

役員改選の件

田村会長から以下のような説明があった。役員の任期は、規約第10条に定められてい

るように一期二会計年度であり、今総会で全役員が任期満了となる。しかしながらこの二年間はコロナの影響で、例会をはじめ各種イベントの中止が多く、皆様のご期待に応えられていない。そこで会長をはじめ主要人事はこのままとし、若手登用をはじめ若干の異動とさせていただいた。このメンバーで二年間務めさせていただきたいと思っっているので、皆様方のご理解をいただきたい。

※新役員については、九ページ参照のこと。

第三号議案については、全員異議なく承認された。

第四号議案

その他

当山専務理事から以下のような報告説明があった。

本年度の例会日程については、七月例会までは決定しているが、九月・十一月・一月・三月分については、詳細が決まり次第、改めてご連絡させていただきます。

上記議事録は、適切に記録されているものと認める。

議事録署名人 山田 朝彦
議事録署名人 鈴木 隆志

令和3年度 連合駿台会 収支計算書

自: 令和3年4月1日

至: 令和4年3月31日

(単位: 円)

| 収入の部 | | | | 実績摘要(収入の部) |
|-------------------------|-------------------|-------------------|---------------|--|
| 勘定科目 | 予算額 | 実績 | 予算比 | |
| 年会費収入 | 15,200,000 | 13,524,000 | 89.0% | (一般)256名、(地方)63名 (新会員入会金)11名×@30,000 |
| 例会費収入 | 3,000,000 | 1,780,000 | 59.3% | 4月例会…79名 11月例会…99名 ※前受金34万円含む |
| 広告費収入 | 1,000,000 | 940,000 | 94.0% | 名刺広告代(@10,000円×74件+@30,000円×5件) ※前期未収分5万円含まず |
| 雑収入 | 10,000 | 656 | 6.6% | みずほ普通預金・みずほ定期預金・ゆうちょ銀行利息 |
| 当期収入計 | 19,210,000 | 16,244,656 | 84.6% | |
| 前期繰越収支差額 | 43,423,796 | 43,423,796 | 100.0% | |
| 合計 | 62,633,796 | 59,668,452 | 95.3% | |
| 支出の部 | | | | 実績摘要(支出の部) |
| 勘定科目 | 予算額 | 決算額 | 予算比 | |
| I. 総務費 | | | | |
| (1) 家賃共益費 | 650,000 | 629,445 | 96.8% | 紫紺館事務所家賃 |
| (2) 人件費 | 2,200,000 | 2,295,650 | 104.3% | 事務局関連業務委託費及び会報発行業務費 |
| (3) 事務通信費 | 1,000,000 | 840,562 | 84.1% | |
| (4) 備品消耗品 | 800,000 | 553,022 | 69.1% | 文具代・飲物代ほか(155,428円)/発送用封筒・会員ネーム札作成&刷代(23,760円)/Wi-Fi代(88,966円)/スクリーン代(63,331円)/名刺代(9,460円)/その他(232,077円) |
| (5) 印刷費 | 1,000,000 | 394,110 | 39.4% | 事務局コピー機リース代(163,392円)/コピー用紙代ほか(230,718円) |
| (6) 雑費 | 400,000 | 551,633 | 137.9% | 事務局交通費等 |
| 総務費計(I) | 6,050,000 | 5,264,422 | 87.0% | |
| II. 事業費 | | | | |
| 1.各委員会運営費 | | | | |
| (1) 総務・事業委員会費 | 6,100,000 | 3,370,565 | 55.3% | 例会費講師謝礼等(2,990,967円)/運営委員会費(149,500円)/その他事業費・委員会・雑経費(230,098円) |
| (2) 組織・会員増強委員会費 | 150,000 | 0 | | 例会費補助(0円)/委員会費(0円) |
| (3) 広報委員会費 | 3,160,000 | 1,800,952 | 57.0% | 会報発行費(935,000円)/HP運営業務委託費(約360,800円)/明大広報広告費(500,000円)/その他(5,152円) |
| (4) 大学支援委員会費 | 3,400,000 | 1,894,600 | 55.7% | 学術奨励賞賞金+副賞ほか(738,600円)/寄付講座(600,000円)/フューチャースキルプレゼン協賛金(240,000円)/大学行事協賛金(300,000円)/委員会費(16,000円) |
| (5) 財務委員会費 | 80,000 | 0 | | 委員会費(0円) |
| 各委員会運営費計 | 12,890,000 | 7,066,117 | 54.8% | |
| 2.その他事業費 | | | | |
| (1) 慶弔費 | 100,000 | 10,000 | 10.0% | |
| その他事業費計 | 100,000 | 10,000 | | |
| 事業費計(II) | 12,990,000 | 7,076,117 | 54.5% | |
| III. 予備費 | | | | |
| 事業費計(III) | 100,000 | 0 | | |
| 当期支出合計(I+II+III) | 19,140,000 | 12,340,539 | | |
| 当期収支差額 | 70,000 | 3,904,117 | | |
| 明治大学創立140周年寄付金 | 10,000,000 | 10,000,000 | | |
| 次期繰越収支差額 | 33,493,796 | 37,327,913 | 111.4% | |

令和3年度 連合駿台会 貸借対照表

自: 令和3年4月1日

至: 令和4年3月31日

(単位: 円)

| 資産の部 | | 負債・正味財産の部 | |
|---------------|-------------------|------------------|-------------------|
| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
| (流動資産) | 55,329,133 | (流動負債) | 11,520 |
| 小口現金 | 191,345 | 源泉預り金 | 11,520 |
| みずほ銀行・普通預金 | 6,185,012 | | |
| ゆうちょ銀行・普通預金 | 3,488,906 | (正味財産) | 55,327,913 |
| みずほ銀行・定期預金 | 33,000,000 | 1. 有志寄付金 | 18,000,000 |
| 大和証券・M. M. F. | 12,463,870 | 2. 次期繰越収支差額 | 37,327,913 |
| (固定資産) | 10,300 | | |
| 電話加入権 | 10,300 | | |
| 資産合計 | 55,339,433 | 負債・正味財産合計 | 55,339,433 |

令和3年度 連合駿台会 財産目録

自: 令和3年4月1日

至: 令和4年3月31日

(単位: 円)

| 科目 | 金額 | | |
|---------------|------------|------------|-------------------|
| 1. 資産の部 | | | |
| (1) 流動資産 | 55,329,133 | | |
| 小口現金 | 191,345 | | |
| みずほ銀行・普通預金 | 6,185,012 | | |
| ゆうちょ銀行・普通預金 | 3,488,906 | | |
| みずほ銀行・定期預金 | 33,000,000 | | |
| 大和証券・M. M. F. | 12,463,870 | | |
| 流動資産合計 | | 55,329,133 | |
| (2) 固定資産 | | | |
| 電話加入権 | 10,300 | | |
| 固定資産合計 | | 10,300 | |
| 資産合計 | | | 55,339,433 |
| 2. 負債の部 | | | |
| (1) 負債の部 | | | |
| 源泉預り金 | 11,520 | | |
| 流動負債合計 | | 11,520 | |
| 負債合計 | | | 11,520 |
| 正味財産 | | | 55,327,913 |

令和4年度 連合駿台会 収支予算

自: 令和4年4月1日

至: 令和5年3月31日

| 収入の部 | | 摘要(収入の部) |
|-------------------------|-------------------|---|
| 勘定科目 | 予算額 | |
| 年会費収入 | 14,200,000 | * (一般) 260名 × @50,000円 = 13,000,000円、(地方) 60名 × @10,000 = 600,000円 (新入会員入会金) 20名 × @30,000 = 600,000 |
| 例会費収入 | 4,000,000 | * 例会(5回) … 80名 × 5回 × @10,000 = 4,000,000円 |
| 広告費収入 | 900,000 | |
| 雑収入 | 10,000 | * 預金利息 |
| 当期収入計 | 19,110,000 | |
| 前期繰越収支差額 | 37,327,913 | |
| 当期収入合計 | 56,437,913 | |
| 支出の部 | | 摘要(支出の部) |
| 勘定科目 | 金額 | |
| I. 総務費 | | |
| (1) 家賃共益費 | 650,000 | * 紫紺館事務所家賃 |
| (2) 人件費 | 2,200,000 | * 事務局関連業務委託費及び会報発行業務費等 |
| (3) 事務・通信費 | 1,000,000 | * 電話代/例会資料等発送費/振込手数料ほか |
| (4) 備品消耗品 | 800,000 | * 発送用封筒代/文具代/会員ネーム札作成代ほか |
| (5) 印刷費 | 1,000,000 | * 事務局コピー機リース代/コピー用紙代/名簿製作費ほか |
| (6) 雑費 | 400,000 | * 事務局交通費/資料代ほか |
| 総務費計(I) | 6,050,000 | |
| II. 事業費 | | |
| 1. 各委員会運営費 | | |
| (1) 総務・事業委員会費 | 6,100,000 | 例会費・講師等謝礼(4,700,000円)/正・副会長費、運営委員会費(600,000円)/各種事業費(700,000円)/諸経費(100,000円) |
| (2) 組織・会員増強委員会費 | 150,000 | 委員会費(100,000円)/会員増強活動費(50,000円) |
| (3) 広報委員会費 | 3,110,000 | 会報発行費(1,500,000円)/HPの管理・維持費(360,000円)/HPリニューアル関連経費(600,000円)/入会案内リーフレット製作費(100,000円)/大学支援広告費(500,000円)/委員会費(50,000円) |
| (4) 大学支援委員会費 | 3,200,000 | 学術奨励賞および副賞(1,300,000円)/寄付講座および諸経費(750,000円)/「学生対抗プレゼン大会」(仮称)副賞ほか費用(500,000円)/「留学生就職支援」関連費(100,000円)/大学行事協賛金(500,000円)/委員会費(50,000円) |
| (5) 財務委員会費 | 80,000 | 委員会費(80,000円) |
| 各委員会運営費計 | 12,640,000 | |
| 2. その他事業費 | | |
| (1) 慶弔費 | 100,000 | |
| その他事業費計 | 100,000 | |
| 事業費計(II) | 12,740,000 | |
| III. 予備費 | 100,000 | |
| 当期支出合計(I+II+III) | 18,890,000 | |
| 当期収支差額 | 220,000 | |
| 次期繰越収支差額 | 37,547,913 | |

連合駿台会運営組織表

| | | | |
|---|---|-----------------------|---|
| (理事会) 《会長》 田村 駿 | | | |
| 《副会長》 山田 憲典 青柳 勝栄 山田 朝彦 畠中 君代 佐藤 健 山田 幸夫 徳丸 平太郎 向井 眞一 浅井 宏 栗原 権右衛門 中川 敏洋 三枝 富博 山本 良一 木下 唯志 西澤 豊 坂田 正弘 狩野 省市 佐野 公哉 草木 頼幸 池田 一義 河村 博 杵掛 英二 木村 健一 《特別顧問》 長堀 守弘 山口 政廣 北野 大 《顧問》 根田 哲雄 児玉 圭司 前川 一郎 二宮 充子 坪 昭二 村田 嘉一 村岡 健 有賀 隆治 丸山 律夫 上西 紘治 岡本 満夫 鈴木 紘一 佐藤 仁 水江 博 潮田 伊佐夫 大原 幸男 並木 洋一 | 運営役員 《専務理事》 当山 明彦 《常務理事》 齋藤 柳光 高澤 徹 伊原 敏雄 吉田 光一郎 鈴木 隆志 《常任理事》 長谷川 進一 平田 静子 杉浦 伸二 松崎 優子 眞壁 八郎 宮下 隆 高橋 郁夫 栢森 靖 古賀 慎一郎 大野 正美 安達 明正 室井 恵明 相臺 志浩 《理事》 小島 清治 富流水 孝二 関根 均 大前 実之 二井 康夫 馬場 範夫 樽見 俊之 奥村 勝広 弓野 理恵 林 威樹 阿部 倫明 辻井 知明 古本 英樹 大石 哲也 中根 武 鬼塚 和也 谷原 誠 根田 吉雄 埴 英幸 山口 大介 水澤 元博 神林 光 泉山 和久 | 《監事》 小山 修 渡邊 建三 | <総務・事業委員会> 委員長 鈴木 隆志 副委員長 杉浦 伸二 宮下 隆 大野 正美 室井 恵明 担当委員 辻井 知明 中根 武 鬼塚 和也 埴 英幸 山口 大介 水澤 元博 神林 光 ・例会の運営、講師などの交渉 ・新年会、バス旅行、オープンゴルフ会など親睦活動の開催 ・その他、大学関係のイベントへの参加奨励など |
| | 《組織・会員増強委員会》 委員長 高澤 徹 副委員長 長谷川進一 栢森 靖 担当委員 関根 均 二井 康夫 馬場 範夫 樽見 俊之 奥村 勝広 古本 英樹 ・新会員増強のため種々のプログラム実施 ・新会員入会審査 ・長期的に見た会員入会基準のスタディと新提案 | | |
| 《広報委員会》 委員長 齋藤 柳光 副委員長 平田 静子 相臺 志浩 担当委員 弓野 理恵 大石 哲也 根田 吉雄 泉山 和久 ・会報の発行並びに編集 ・ホームページの維持・管理 ・会員間の情報交換を促進 | | | |
| 《大学支援委員会》 委員長 伊原 敏雄 副委員長 眞壁 八郎 高橋 郁夫 安達 明正 担当委員 小島 清治 富流水 孝二 大前 実之 林 威樹 阿部 倫明 ・大学が求める支援プログラムについて個々に検討、支援の実施 ・学術賞の報奨金、対象者などについて効果的な支援策の検討 ・寄付講座など大学への諸行事の支援プログラムの計画・実施 | | | |
| 《財務委員会》 委員長 吉田光一郎 副委員長 松崎 優子 古賀慎一郎 担当委員 谷原 誠 ・入会金、年会費、広告料など、当会資産の管理 ・当会資産の活用方法について協議、使途などの提案 ・新しい大学支援システムなどへのアドバイス | | | |
| 《運営委員会》 … 会長・専務理事・各委員長 ・各委員会活動状況に関する、情報シェアおよび意見交換 ・連合駿台会全体の活動についての提案と討議 | | | |
| 1. 理事会 … 会長・副会長・専務理事・常務理事・ 常任理事・理事・特別顧問・顧問・監事 2. 各委員会 … 委員長は常務理事、副委員長は常任理事、 担当委員は理事 3. 必要に応じて正・副会長会議を開催することができる | | | |

◆新入会員の紹介

前会までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。
(敬称略・到着順)



ふじた まこと
藤田 誠
平成九年・商学部卒
インクルーシブ(株)
代表取締役
東京都港区在住



かむら こうぞう
加村 光造
平成九年・理工学部卒
勤次郎(株)
代表取締役社長
愛知県名古屋市在住



つゆき よしほる
露木 良治
昭和六十二年・経営学部卒
デンタルオフィスみなと
院長
静岡県沼津市在住



おおさわ けんたろう
大澤 健太郎
平成九年・商学部卒
司法書士事務所アルファパートナーズ
代表司法書士
東京都中野区在住



たけうち たいいち
竹内 太一
昭和五十一年・商学部卒
(株)在料理司 弥保希(おほけ)
代表取締役社長
東京都渋谷区在住



なかの よしひろ
中野 祥宏
昭和六十二年・商学部卒
住友生命保険相互会社
常務執行役員
東京都新宿区在住

◆訃報

会員の熊崎勝彦氏(昭和四十年・法卒、熊崎総合法律事務所長・元東京地検特捜部長・元日本プロ野球コミッショナー)が、令和四年五月十三日に逝去されました。享年八十歳。ご冥福を心からお祈り申し上げます。

◆明大ニュース

●岸田文雄自民党総裁(内閣総理大臣)が来校
自由民主党総裁の岸田文雄内閣総理大臣が、六月十九日、駿河台キャンパスの米沢嘉博記念図書館・現代マンガ図書館で行われたマンガ家ら有識者との座談会出席のため来校し、出迎えた柳谷孝理理事長と懇談を行った。

岸田総理は、「柳谷理事長は、証券業界から転身されて、大学の収益安定化や女性理事

の任用など、経営改革に取り組みられていると伺っています」とあいさつした。

柳谷理事長は岸田総理を歓迎するとともに、二〇二一年に創立一四〇周年を迎えた本学の記念事業を紹介。さらに、現在、中国、インド、インドネシアなどの国では、学生人数が自国の収容定員を超えていて、優秀な学生ほど海外留学をする傾向にあることに言及したうえで、「明治大学は、コロナ禍前には留學生の送り出しの人数で全国の大学で二位となるなど、大六野耕作学長のもと、『世界に開かれた大学』としてグローバル化に力を入れています」と本学の取り組みを説明した。

それを受けた岸田総理は、「大学の質という面から、(国外の大学との学生交流について)前向きに考えていくのは望ましいこと」と述べるなど、明治大学のこれからの教育・研究活動への期待を示した。

●東京六大学野球春季リーグ 硬式野球部が四十一度目の優勝

体育会硬式野球部は五月二十三日、東京六大学野球春季リーグ立教大学三回戦に1-0で勝利し、二〇一九年春以来となる六季ぶり通算四十一度目の優勝を決めた。リーグ戦を十勝三敗二分けで終え、全五校から勝ち点を挙げる完全優勝を達成した。
優勝争いの直接対決となった立教大学戦。

一勝一分で迎えた三回戦は手に汗握る投手戦となり、両チームともに無得点で九回の攻防を終えた。迎えた延長十一回裏、一死満塁のチャンスで、蓑尾海斗選手（文学部4年）がライトへのサヨナラ犠牲フライを放ち、明大の勝利となった。

試合後のインタビューで田中武宏監督は、「東京六大学野球連盟や、各校関係者のご尽力があつてリーグ戦を開催することができた。春季リーグ戦を無事に終えることができたことを感謝しています」と謝辞を述べた。

主将の村松開人選手（情報コミュニケーション学部4年）は、「チーム全員でリーグ優勝に向かって頑張ってきたので、良い結果になってうれしく思う」と笑顔を見せた。

全日程が終了し、宗山塁選手（商学部2年）が首位打者賞を獲得。ベストナインに、山田陸人選手（法学部4年）、蓑尾選手、蒔田稔選手（商学部3年）、上田希由翔選手（国際日本学部3年）、宗山選手が選出された。

●OB社長

▽雪印メグミルク(株) 佐藤雅俊氏（一九八五年法学部卒・五十九歳）

▽(株)フージャースホールディングス 小川栄一氏（一九八八年経営学部卒・五十七歳）

▽UDトラックス(株) 丸山浩二氏（一九八五年政経学部卒・六十一歳）

▽日興ビジネスシステムズ(株) 野口一哉氏（一九八六年法学部卒・五十九歳）

▽(株)マルタイ 川島英広氏（一九八六年政経学部卒・五十九歳）

▽伊藤組土建(株) 大谷正則氏（一九八三年工学部卒・六十三歳）

▽(株)東北新社 小坂恵一氏（一九七七年経営学部卒・六十七歳）

●司法試験（短答式試験）

明大から六十四人が合格—全国九位

法務省は六月二日、二〇二二年司法試験のうち短答式試験（憲法・民法・刑法、五月十五日実施）の結果を発表した。明治大学専門職大学院法務研究科（法科大学院）の合格者数は六十四人で、法科大学院別では全国九位だった。

総受験者数三千八十二人のうち、合格に必要な成績を得た者は二千四百九十四人。合格率は八〇・九％、合格者の平均年齢は三十七歳だった。論文式試験（五月十一、十二、十四日実施）の成績も加えた最終合格者の発表は、九月六日に行われる。

司法試験の受験資格は、法科大学院の課程修了、または司法試験予備試験の合格により得られる。受験期間は、受験資格取得日後の最初の四月一日から五年間。

◆五月総会・例会出席者

青柳勝栄、浅井宏、安達明正、有賀隆治、池田一義、石川均、泉山和久、伊東正博（代理）、井上欽也、同ご同伴、今村健、岩永省一、上西紘治、宇川一夫、潮田伊佐夫、内川雄一郎、浦川竜哉、大野正美、大原幸男、大前実之、大村託現、奥村勝広、鬼塚和也、狩野省市、栢森靖、河村博、神田達治、神林光、久保聡、栗原権右衛門、黒崎昭男、小島清治、児玉圭司、小山有彦、同ご同伴、根田哲雄、根田吉雄、齋藤柳光、三枝富博、坂田英夫、同ご同伴、佐藤仁、佐野公哉、志田憲彦、柴尾雅春、柴田清之、杉浦伸二、鈴木隆志、関根宏一、瀬戸正道、高澤徹、高澤尚志、高見克司、田口幸隆、武内裕、田村駿、樽見俊之、辻井知明、露木良春、当山明彦、徳丸平太郎、富田浩志、富水流孝二、中川敏洋、中根武、中村康一、中村豊、二井康夫、西澤豊、萩原裕次、長谷川進一、畠中君代、幡谷公朗、塙英幸、馬場範夫、林威樹、深代尚夫、福田和彦、真家裕介、眞壁八郎、榎野泰、松崎優子、宮入知喜、向井眞一、村岡健、室井恵明、本橋尚樹、山口大介、山口政廣、山田憲典、山田朝彦、山田幸夫、山村明好、弓野理恵、吉田光一郎、吉田信行、同ご同伴、吉田均、渡邊建三



経済、法曹、文化など各界でご活躍の明治大学OB諸氏よ！
来たれ！「連合駿台会へ！」

「連合駿台会」は、1953年に設立された「茗水クラブ」と、1964年に設立された「明友クラブ」が2002年に統合して設立された歴史あるOB組織です。

新入生の皆さま、入学おめでとうございます！

コロナ騒動もウィズコロナということで、このコロナをどう受け止め、どう共生していくのかという新しい局面を迎えています。

そして、ロシアのウクライナへの侵攻。世界が大きく変わろうとしています。この二つの問題は、一国のみで解決できることではなく、世界中の国々が一つにならないと解決に向かいません。新入生の皆さまには

これらの課題を含め、これからの新しい社会、新しい時代を築いていただくための知恵と力に大きく期待するものです。

そのためにも新入生の皆さまには、明治大学生としての誇りと喜びを胸に生き生きとした学生生活を送っていただきたいと思えます。

大いに学び、交流し、有意義な学生生活を楽しんでください！



連合駿台会会長
田村 駿
(明治大学評議員会議長)



各界で活躍されておられる明治大学校友のご入会を歓迎いたします

資料のご請求はこちらまで

連合駿台会事務局

TEL : 03-3296-4747 FAX : 03-3296-4748 HP : <https://www.rengosundaikai.jp>
Email : rengosundaikai@silk.ocn.ne.jp

★明治大学広報(5月1日号)に掲載された大学への支援広告。今後も2ヵ月に1回掲載していく予定です。



経済、法曹、文化など各界でご活躍の明治大学OB諸氏よ！
来たれ！「連合駿台会へ！」

「連合駿台会」は、1953年に設立された「茗水クラブ」と、1964年に設立された「明友クラブ」が2002年に統合して設立された歴史あるOB組織です。

去る5月18日に、第68回連合駿台会通常総会と5月例会を、ロイヤルパークホテル・ロイヤルホールにて、感染症対策を徹底した上で開催いたしました。通常総会では、令和3年度事業報告書、決算報告、令和4年度事業計画案・予算案が承認されました。また役員改選が行われ、田村駿会長が再任されました。

続いて開催された5月例会では、(株)スヴェン

ソンホールディングス代表取締役会長の児玉圭司氏(連合駿台会顧問・駿台体育会名誉会長・昭和32年経営学部卒)から、「明治大学と私」と題してご講演いただきました。わが国卓球界における氏のご活躍や、北島忠治氏をはじめとする校友との思い出、近年の明治大学卓球部の活躍など、非常に興味深いお話をいただきました。



各界で活躍されておられる明治大学校友のご入会を歓迎いたします

資料のご請求はこちらまで

連合駿台会事務局

TEL : 03-3296-4747 FAX : 03-3296-4748 HP : <https://www.rengosundaikai.jp>
Email : rengosundaikai@silk.ocn.ne.jp

★明治大学広報(7月1日号)に掲載された大学への支援広告。今後も2ヵ月に1回掲載していく予定です。

【編集後記】

明治大学が誇る作詞家・阿久悠(本名・深田公之)さんの記念館が開館一〇周年を迎えた。感慨深い。阿久さんとは一介の記者としてのお付き合いだったが、「校歌が好きで明治大学に入った」と知り、終生の大ファンとなった。その阿久さんが死の床で「駿河台に帰りたい」と語った遺志に感動して、非力ながら母校への橋渡しに奔走させていただいた。そのかいあって一周忌を経て大学からご高配を賜り伊豆・宇佐美の阿久悠邸に吉田悦志教授(元副学長)らをご案内し、雄子夫人やご子息の太郎さんと綿密に打ち合わせ、今に至っている。

母校とは校歌で絆を結んだ阿久さんだが、手がけた5000余の詞になぜか校歌の類はほとんどない。依頼は殺到していただろうに何らかの理由で断り続けたらしい。ところが、コロナ禍直前、熱海沖の初島で思いもかけない大発見をした。ふと目に留まった初島小中学校の校歌(地球の丸さを知る子供たち)碑に、何と「作詞・阿久悠」とあったのだ。

「空にも道がある 海にも道がある 流れる風にも道がある (中略) 視界ははるか三六〇度 地球の丸さを知る子供たち 初島 初島 ああ初島」

一九八〇(昭和五十五)年制定。作曲は盟友の三木たかし氏。分校から独立したことで校歌がなく校長が阿久さんに依頼すると無償で引き受けたという。そのころ淡路島育ちの阿久さんは自伝的長編小説「瀬戸内少年野球団」を著している。思い起こせば、初島は阿久悠邸から眼下に手に取るように見えた。おそらく初島の子どもたちにながしか感情移入して贈った詞なのだろう。奇しくもその小旅行を一緒したのは明大同期のボン友四人。誰ともなしに「白雲たなびく」と口ずさみ、いつしか放吟となった。

今春の記念イベントで、作曲家の都倉俊一氏や吉田先生、そして太郎氏が、荒川強啓氏の司会で鼎談し、阿久悠氏の詞曲の役割は「個になりがちな人々を一つの空間を共有するためにあった」と総括しておられた。明治大学校歌に阿久悠マインドは確かに息づいている。

(齋藤柳光)